

狩猟免許更新講習 猟具の取扱い

環境省自然環境局
野生生物課 鳥獣保護管理室

捕獲手法への全般的な理解の必要性

○ 対象鳥獣の種類や環境条件に応じた手法を選択できる。

- ・ 単一の手法では捕獲効率が下がる場合。
- ・ 特定の手法が使えない場所や条件での捕獲。

○ 経験の異なる従事者の技術や安全基準を理解し合う。

- ・ 安全で円滑な業務が行なえる。

○ 捕獲の目的に応じた手法を選択できる。

銃による捕獲の特徴

○利点

- ・ 即時に殺傷して捕獲できる。
- ・ 能動的に移動して捕獲できる。
- ・ 誘引や馴化が必要ない方法もある。
- ・ 対象鳥獣を目視して選択的に捕獲できる。

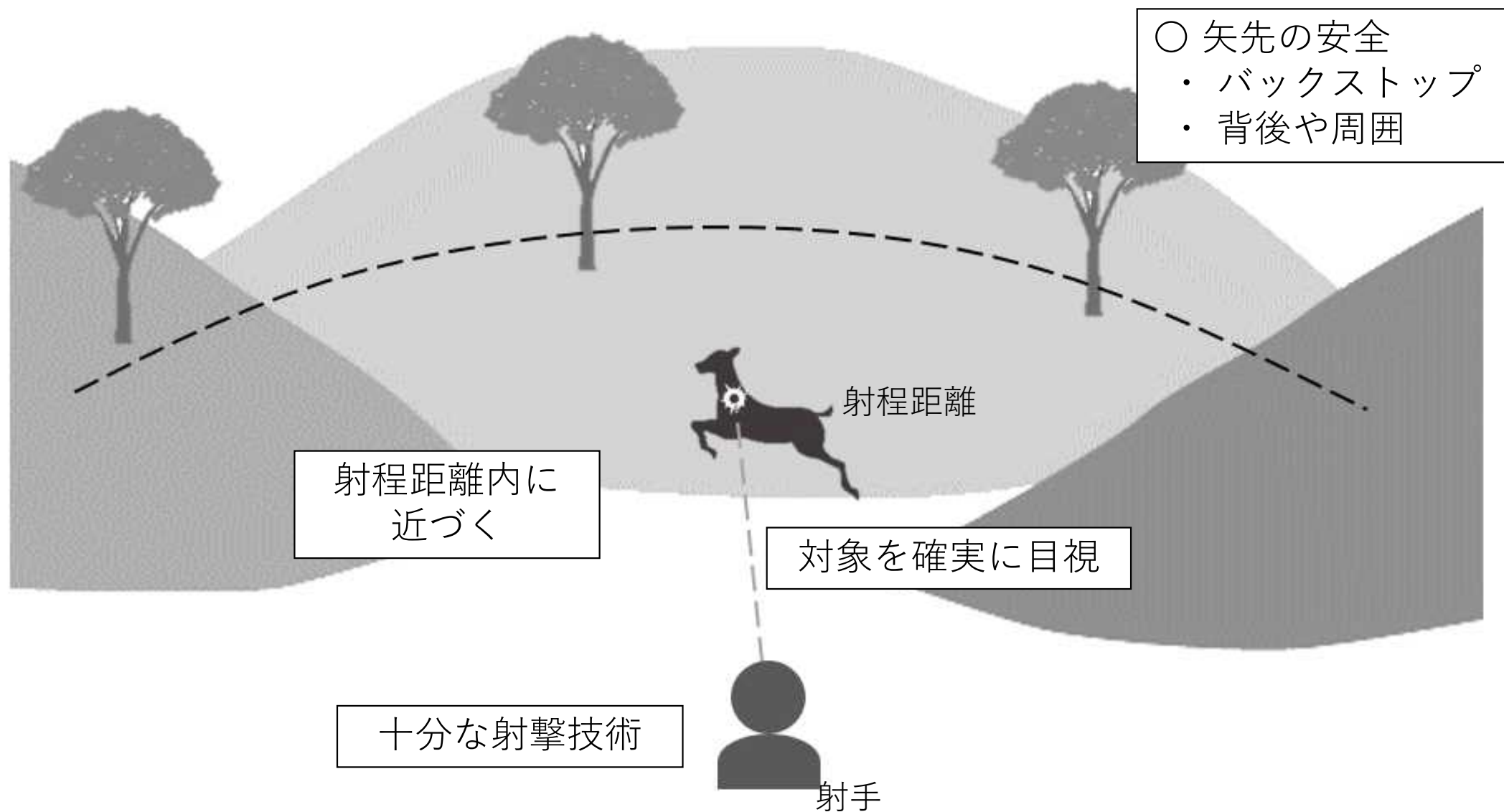
○条件

- ・ 射程内に対象を捉える技術や射撃技術が必要。
- ・ 高度な安全管理が求められる。

銃による捕獲が可能になる条件（１）

- 対象鳥獣を確実に目視できる。
- 銃の射程内に近づく（あるいは誘引する）。
- 矢先の安全が確保されている。
- 射撃技術がある。

銃による捕獲が可能になる条件（2）



○ これらの要件が全てそろって、銃による捕獲が可能。

銃による捕獲手法の類型

- 待ち伏せて捕獲する。
- 探索・追跡して捕獲する。
- 待ち伏せと探索・追跡を組み合わせて捕獲する。
- 射手が、定位置で待機するのか、移動するのかで求められる技能や安全管理の注意点が異なる。

待ち伏せて捕獲する方法

○ 特徴

- ・ 対象鳥獣が近づくのを待ち伏せて射撃。
例：待ち伏せ猟・誘引狙撃・コール猟 など
- ・ 従事者の安全管理がしやすい。
(あらかじめ発射位置と射撃範囲を限定できる。)
- ・ 誘引期間や待機時間は様々な条件に左右される。
- ・ 対象鳥獣や引付方法により射撃距離や射法が変わる。
- ・ 方針に合った銃器や弾、照準器を選定。

○ 必要な技能と作業

- ・ 痕跡等の状況判断による出没地点の見立て。
- ・ 誘引できる場所や誘引方法の見立て。
- ・ 適切な射撃地点の判断や射撃範囲の想定。

探索や追跡をして捕獲する方法（１）

○ 特徴

- ・ 射手が対象鳥獣に近づいて射撃する。
例：流し撃ち・忍び猟・跡追い猟 など
- ・ 追跡に猟犬を使用する場合がある。
- ・ 移動しながらの射撃にはより高度な安全管理が必要。



探索や追跡をして捕獲する方法（２）

○ 必要な技能と作業

- ・ 対象鳥獣と遭遇できる知見や技術。
- ・ 相手に気づかれないように行動する技術や感覚の鋭さが必要。
- ・ 確率の高い場所や時期の見立てが必要。
- ・ 山中を歩きながらの銃器の安全な操作。
- ・ 移動しながらの状況把握と、安全な射撃位置・方向の判断。
- ・ すばやく対象に狙いをつける技術。

探索や追跡と待ち伏せを組み合わせる捕獲する方法（１）

○ 特徴

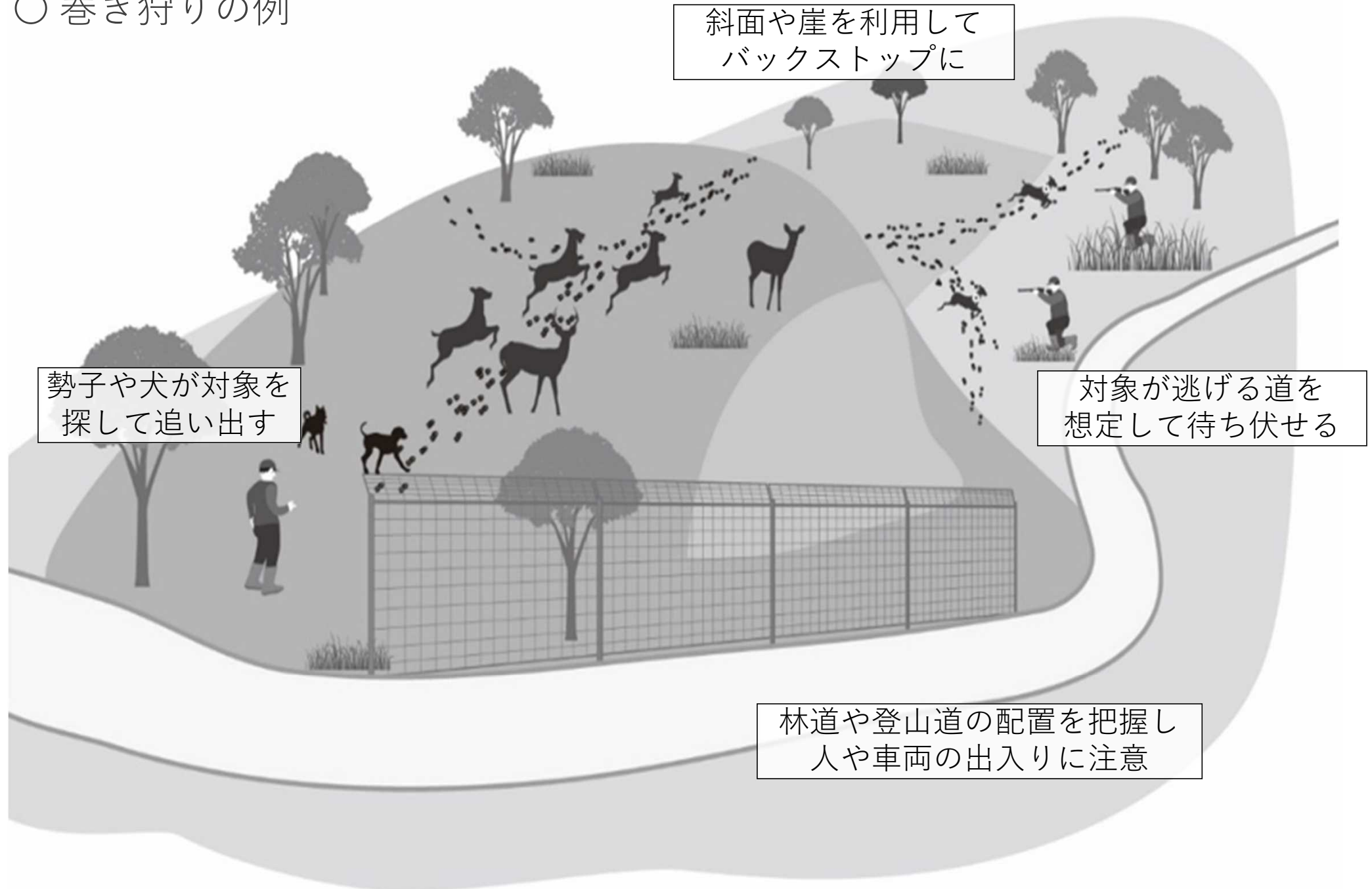
- ・ 追跡と待ち伏せを役割分担し共同で捕獲を実施。
- ・ 勢子（おもに追跡の役割）。
山中を歩きまわり対象鳥獣を待ち手の前に追い出す。
追跡をして対象鳥獣を仕留める場合もある。

○ 待ち手（待ち伏せの役割）

- ・ 対象となる地域を複数人で包囲。
- ・ 対象鳥獣が追い出されそうな場所で待ち伏せ仕留める。

探索や追跡と待ち伏せを組み合わせる捕獲する方法（2）

○ 巻き狩りの例



探索や追跡と待ち伏せを組み合わせる捕獲する方法（３）

○ 必要な技能と作業

「探索・追跡」と「待ち伏せ」で必要なことに加えて、

- ・ チーム全体の方針と計画。
 - －従事者の人数・能力
 - －猟犬の使用有無や犬種
 - －勢子や待ち手の配置や動き 等
- ・ チームの方針と計画に従事者全員が理解。
- ・ 指揮者からの指示と作業中のコミュニケーション。

銃による捕獲に必要な技能と作業

○ 銃による捕獲に共通に必要な項目

- ・ 捕獲方法に合わせた機器の選択と手入れ・調整。
- ・ 銃器の安全で正確な操作。
- ・ 射撃可能な範囲や条件の想定。
- ・ 発砲の安全を判断する状況把握。
- ・ 正確な射撃技術。

○ 猟犬を用いる場合に必要な項目

- ・ 登録や予防接種等の実施。
- ・ 日ごろからの訓練。
- ・ 人や飼育動物に危害を加えない。
- ・ 捕獲にふさわしい犬種や個体の選択。
- ・ 現場では常に管理の下で行動させる。

わなによる捕獲の特徴

○ 利点

- ・ 一人で多くのわなを管理できる。
- ・ 夜間も捕獲できる。
- ・ 銃器より安全管理や技術獲得が容易。
- ・ 技術がない人でも協力できる作業が多い。

○ 条件

- ・ 資機材の設置や毎日の見回りが必要。
- ・ 捕獲に至るまで日数がかかる場合も多い。
- ・ 対象鳥獣以外が錯誤捕獲される危険性がある。

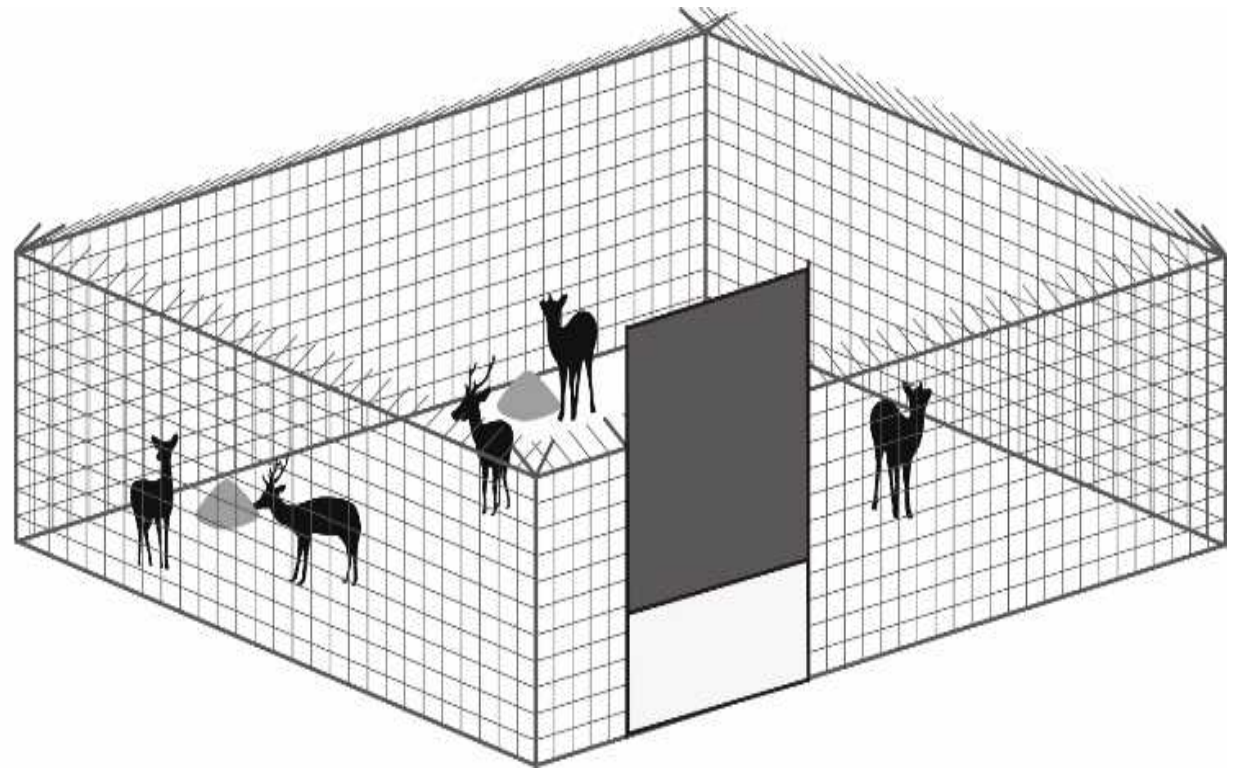
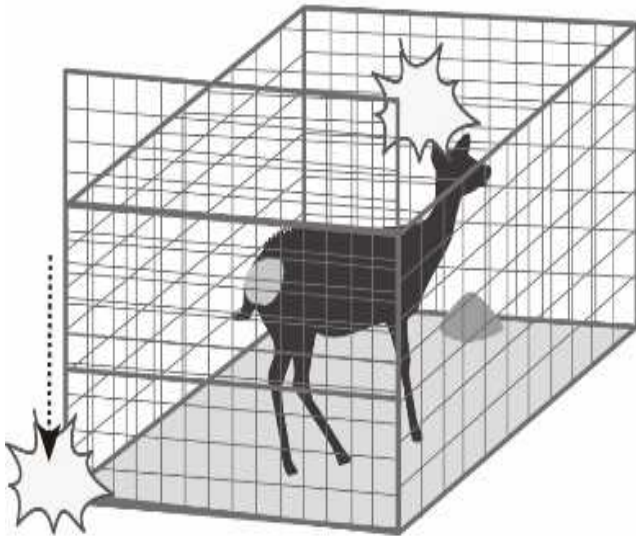
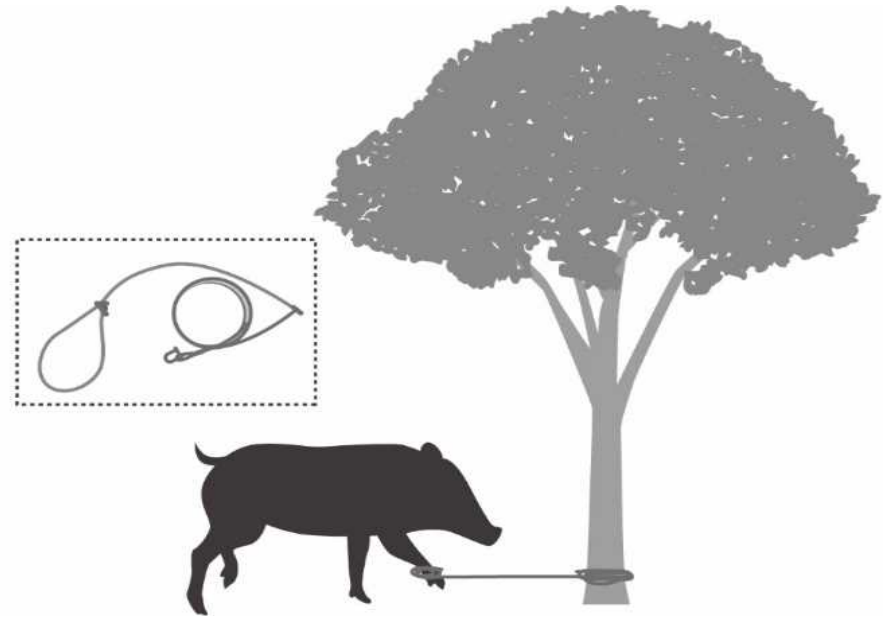
わなによる捕獲のポイント

- 対象鳥獣が出没する場所を選ぶ。
- 安全が確保できる場所に設置する。
- 特に捕獲後の状況を想定した留意が必要。
- 警戒心を解いてわなに誘導する。
- 確実に拘束する。
- 適切に殺処分を行う。

わなによる捕獲の種類

○ 餌を使って誘引する方法。

○ 気づかれずに捕獲する方法。



餌を使って誘引する方法（箱わな・囲いわな）

- 対象鳥獣を誘引し出入り口を閉じて捕獲。
- くくりわなと比較すると捕獲後の安全性は高い。
 - ・ わなの仕様や強度が十分である場合。
- 毎日の見回りや餌やりを確実に実施。
 - ・ 事故の防止。
 - ・ 捕獲効率の向上。
 - ・ 錯誤捕獲の防止。

箱わなによる捕獲の流れ

ステップ1

場所を決める



ステップ2

餌付けで誘引



ステップ3

餌付けを続けて警戒心を解く



ステップ4

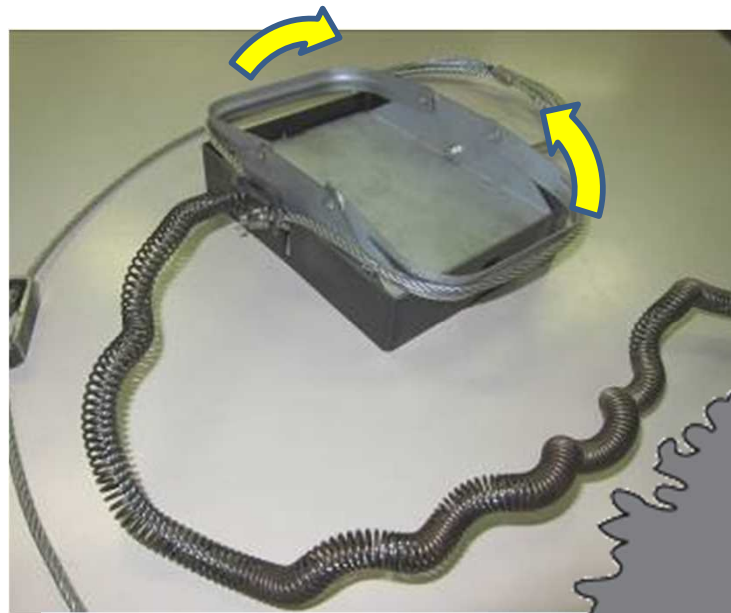
捕獲する



気づかれずに捕獲する方法（くくりわな）

- 対象鳥獣の体の一部をくくって拘束。
- 事故や逃亡の危険性が比較的高い。
 - ・ 対象動物に合った強度のある資機材の使用と設置。
- 気づかれないようにわなを設置する技術が必要。
- 対象動物が確実に足を置く場所の見極めが必要。
- 毎日の見回りを確実に実施。
 - ・ 事故の防止。
 - ・ 捕獲効率の向上。

くくりわなによる捕獲の流れ



獲物が踏み板を踏むと、バネの力でワイヤーの輪がしまり、足がくくられる。

ワナの上部は土や落ち葉で覆ってカモフラージュする。

